航空ファン
KOKU-FAN

ワイドカラー
WIDE COLOUR
スーパーマリン
スピットファイア5C



☆特集☆
カラー：F-18の原型となったYF-17
低騒音・短距離輸送の実験機 QSRT
スイスのドューベンドルフ航空ショー

'78 NOVEMBER 11


イタリア空軍のアクロバット・チーム
フレッチェ・トリコローリ
15
ITALIAN AF SHOW FLIGHT TEAM FRECCE TRICOLORI



イタリア空軍のアクロバット・チーム"フレッチェ・トリコローリ"が使用している，フィアットG.91。チームができたのは1961年で，初めカナディアセイバーMk.4を使用していたが，現在はこのG.91が10機使用されている。

The Italian Show Flight Team, FRECCE TRICOLORI, is composed of ten Fiat G.91 fighters. The team originally used Sabre Mk.4 when it was organized in 1961.





ノースロップ YF-17

NORTHROP YF-17

(NORTHROP Photo)



(NORTHROP Photo)



(Photo by E. [illegible])



(Photo by F.B. Mormillo)



NORTHROP Photo

左ページ上とこのページ上は，カナダへのデモフライトのため，カナダの国籍マークを描いて飛行中のYF-17原型2号機。主翼にはサイドワインダーAAMを装備している。
左ページ下はエドワーズ基地のYF-17原型1号機。海軍のグレイ3色による迷彩が施されている。エンジンやエレベーターが取りはずされているが，同機は常に2号機を飛行可能な状態にしておくための，スペアーパーツ用になっている。
下はYF-17原型2号機を改造したF-18原型機。スペイン空軍の塗装が施されている。現在飛行できるYF-17は2号機だけである。

YF-17 prototype No.2 with AAM Sidewinder missiles on the wing painted in the Canadian national insignia apparently for sales demo-flight purposes. The left bottom is the YF-17 prototype No.1 at Edwards. She is not flyable because she is a spare-parts providing aircraft to keep No.2 (or F-18 prototype) in the flying status airworthy. The F-18 prototype is painted in the Spanish AF paint scheme.





国産ビジネス・ジェット機　三菱MU-300

三菱重工業がMU-2の後継機として開発していた，双発ビジネス・ジェット機MU-300がこのほど完成，去る8月29日朝，初飛行を行なった

Mitsubishi twin-engined business jet aircraft, MU-300, made a successful flight on the morning of August 29. This is the successor of MU-2

DOMESTICALLY MADE BUSINESS JET, MITSUBISHI MU-300



レッドフラッグ演習の航空機
PARTICIPANTS IN EXERCISE RED FLAG



F-4N of VMFA-321. Red stars on the air intake indicate victories over MIG fighters during the Vietnam conflict.
(Photo by F.B. Mormillo)

米海兵隊321戦闘攻撃飛行隊(VMFA-321)所属のF-4N。空気取入口ベーンにベトナム戦争におけるミグの撃墜マークを描いてある



(Photo by F.B. Mormillo)

第347戦術戦闘連隊(347thTFW)所属のF-4E。空気取入口ベーンにベトナム戦争でのミグ撃墜マークが描かれているが、これは同機のパイロットが撃墜したものではなく、この機体がミグキラーであることを示している。

F-4E of 347th TFW. The stars indicate victories credited to the aircraft, not to the pilots.

(Photo by F.B. Mormillo)




(Photo by F.B. Mormillo)


(Photo by F.B. Mormillo)

△第57戦術訓練航空団(57th TTW)所属のF-5E。訓練時に仮想敵機に使用されている。
▽355th TFW所属のA-7D。主翼下面に訓練用模擬爆弾を搭載している。
▽第175戦術戦闘グループ(175th TFG)所属のA-37B

△F-5E of 57th TTW, in use for an aggressor in training.
▽A-7D of 355th TFW, with practice bombs under the wing.
▽A-37B of 175th TFG.

(Photo by F.B. Mormillo)





(Photo by G.Wragg)

カナダ・アメリカの合同空戦演習
"MAPLE FLAG" 参加機

去る4月末から5月末まで，カナダのコールド・レーク基地で行なわれた演習参加機
上はエプロンに勢ぞろいしたCF-104，F-15，A-4M，A-7D．下はタキシングするカナダ国防軍第419スコードロンのCF-5B．

The US-Canada joint exercise MAPALE FLAG was held at the Canadian Forces' Cold Lake base; April - May 1978. (Top) - F-104, F-15, A-4M, A-7D waiting for their turn at an apron. (Bottom) - The Canadian Forces' CF-5B starts taxiing.

(Photo by G.Wragg)





(Photo by G. Wrage)



(Photo by G.Wragg)



前ページ上は滑走路にむかう第416スコードロンのCF-101B。下はフライトラインをタキシー・アウトする第410スコードロンのCF-101B。後方には米空軍第1戦術戦闘航空団（1st TFW）のF-15Aと海兵隊第211攻撃飛行隊（VMA-211）のA-4Mが並んでいる。

Prev. page: CF-101B of 416th Sq. Bottom: CF-101B of 410th Sq. In the back are F-15As of 1st TFW and A-4Ms of VMA-211.

(Photo by G.Wragg)



エプロンにならぶカナダ国防軍第409スコードロンのCF-101B（上）。タキシングする第409スコードロン所属のCF-101B（下）。

The Canadian Forces' 409th Sq CF-101Bs in a row at an apron.
The 409th Sq CF-101B taxiing.



(Photo by D.Ostrowski)



(Photo by D.Ostrowski)

米軍機アルバム

↑米戦術航空軍団(TAC)の司令官ロバート.T.ディクソン大将の乗機F-15A。機首の絵はディクソン司令官の退役式用に描かれたもの。

↑ TAC Commander Gen. Robert T. Dickson's aircraft, F-15A, with the memorial marking for his retirement on the nose.



↓"オーバーラップ・カモフラージュ"を施した、第23戦術戦闘航空団(23rdTFW)所属のA-7D。主翼下のポッドには写真のようなサメの口が描かれている。

↓ A-7D of 23rd TFW in an overlapping camouflage and with a shark-mouth paint pod under the wing.

AMERICAN MILITARY AIRCRAFT ALBUM

(Photo by D.Ostrowski)





(Photo by F.B. Mormillo)

ジョージ空軍基地の第35戦術戦闘航空団(35th TFW)に新たに配備された、ワイルドウィーゼル機F-4G。アンテナの収められた機首の[illegible]部の[illegible]がよくわかる。

Wild Weasel aircraft F-4G newly assigned to the 35th TFW, George AFB, Cal.

(Photo by F.B. Mormillo)





速報!! ファーンボロー'78

FARNBOROUGH INTERNATIONAL AIR SHOW '78

今月3日から10日までイギリスのファーンボロ航空ショーが開催された。今回は16ヵ国から約350社が参加して，展示飛行も前回より増えて78機で行なわれたが，全体的に小型機が多く，またアメリカ軍用機のほぼ全面的な出場停止やソ連機の不参加などにより，迫力に欠ける国際航空ショーであった。ショーの詳しい内容については来月号で紹介するが，ここでは参加機の中から何機かをピックアップして見た。

△離陸するH.Sホーク練習／攻撃機。
▽地上展示されたSEPECATジャガーGR.1。

A total of 78 aircraft participated from 350 companies, 16 nations, in the 1978 Farnborough International Air Show, 3-10 September. It is noted that only very few military aircraft particicipated from the U.S., while the USSR sent none to the show. With the view to the closing hours, here are picked up promptly only some in this issue.

△H.S. Hawk Trainer-Attacker
▽SEPECAT Jaguar G.R.1







△展示飛行するデハビランドカナダDHC-5バッファローSTOL輸送機。
◁離陸するスペインのCASA社の開発したC.212アビオカー軽輸送機。同機はスペイン空軍をはじめ，ポルトガル，インドネシア，ヨルダン空軍などで使用されている。
▽ショート社がスカイバンに続いて開発したショートSD300STOL輸送機。

△De Havilland Canada DHC-5 Buffalo STOL transport
◁Spanish CASA C.212 Aviocar transport. This is in use by Polish, Indonesian, Jordanian and other Air Forces.
▽Short SD 300 STOL transport



〔上〕イギリスのシーハリアーMk. 1。同機はハリアーV/STOL機の海軍向けで，去る8月20日に初飛行したばかりの最新鋭機。イギリス海軍では34機を発注している。
〔中〕コメット4型を改造した，ニムロッドAEW型用レーダー実験機
〔下〕ヨーロッパの国際航空ショーではなおじみの参加機パナビア200トーネード。

(Top) – Sea Harrier Mk. 1, Navy-type Harrier V/STOL, which maiden flight was held on 20 August 1978. The British Navy is expected to receive a total of 34 planes of this model
(Mid.) – Nimrod AEW radar experimental plane, or a remodeled Comet 4.
(Bottom) – Panavia 200 Tornado.









(TASS)

ミグ-21“フィッシュベット”

MIG-21 FISHBED

離陸するミグ-21MF。逆光写真のため細部が良くわからないが，機体には迷彩塗装が施されている。また，主翼下面には57mmロケット弾が16発入るUV-16-57ポッドを装備している。

Because of the backlighted shot, the details of the camouflage is not clear, but the plane is equipped with sixteen 57mm rockets under the wing and UV-16-57 pods.



△レニングラード軍管区に配備されているミグ-21MF。この機体も前ページの機体同様に迷彩塗装が施されているが、ソ連のミグ-21の迷彩機は非常にめずらしい。

△MiG-21MF, now being assigned to the Leningrad Military District. The camouflaged MiG-21 is rare.

(TASS)

▽滑走路に向けタキシングするミグ-21MF。上の機体同様レニングラード軍管区に配備されているもの。

▽MiG-21MF, Leningrad Military District, taxiing.

(TASS)



スイス空軍
デューベンドルフ航空ショー
DÜBENDORF AIR SHOW, SWITZERLAND AIR FORCE



去る8月25, 26日の両日，スイスのデューベンドルフ空軍基地で航空ショーが行なわれた。
△着陸する第17スコードロン所属のミラージュIIIS
▽スイス空軍唯一の輸送機部隊に配備されているユンカースJu-52。同機が飛行可能な状態で使用されているのは現在スイス空軍だけである。

（本文67ページ参照）

On 25 and 26 August, an air show was held at Dübendorf AB base, northeast of Zurich.
△Landing is the Mirage IIIS of the 17th Sqdn.
▽Ju-52. Only Switzerland still uses this aircraft.





△編隊着陸をするハンターMk.58。スイス空軍では190機のハンターを装備している。

△Hunter Mk.58. Swiss AF has now a total of 190 Hunters.



△滑走路へ向けタキシングするベノムMk. 4.
▷飛行訓練用にMk. 6とT. Mk. 55合わせて95機が使用されているデハビラント・バンパイア。

△Venom Mk.4

▷De Havilland Vampire. Swiss AF has a total of 95 planes of Mk.6 and T.Mk.55.









［上］着陸する第10スコードロン所属の，偵察型ミラージュIIIRS。機首にカメラを装備している。
［中］地上展示された第16スコードロン所属のミラージュIIIS（手前）と第10スコードロン所属のミラージュIIIS。
［下］機体を黒と黄で派手に塗り分けた標的曳航機FAF C-3605。

(Top) Mirage IIIRS of 19th Sq. with a gun camera on the nose;
(Mid) Mirage IIIS of 16th Sq (this side) and Mirage IIIS of 10th Sq.
(Bottom) Black/yellow painted target drawer, FAFC-3605.



レッド・フラッグ演習

Photos by F.B.Mormillo





米空軍戦術戦闘機武器センターのあるネリス空軍基地では、一年中断続して"レッド・フラッグ"演習が行なわれており、各部隊から乗員が交替で派遣されて訓練を受けている。写真は去る5月に行なわれた時のもの。上は第347戦術戦闘連隊(347thTFW)所属のF-4Eで、胴体機首下面にALQ-119ECMポッド、中央下面には模擬核爆弾を装備している。下も同じく347thTFWのF-4Eで、空気取入口ベーンにベトナム戦争におけるミグの撃墜マークが描いてある。なおこの347thTFWは、1971年初めまで横田基地に駐留していた部隊である。



Participants in "Red Flag" exercise #78-5 at Nellis AFB. (Top) - F-4E from 347th TFW. (Bottom) - F-4E of 347th TFW. The 347th TFW had been in Yokota AB, Japan by early 1971. Note the MiG kill marks on the air-intake vane.





このページ上は，離陸するデビスモンサン基地の335thTFW所属のA-7D。中はメリーランド州航空隊（ANG）第175戦術戦闘グループ（175thTFG）のA-37B。下は演習で仮想敵機となる，ネリス基地第57戦術訓練連隊（57thTTW）のF-5E。

Davis-Monthan AFB. (Top) - A-7D of 335th TFW. (Mid.) - A-37B of 57th TTWfrom Nelis, a hypothetical aggressor.









△離陸するバーグストロム基地第67戦術偵察連隊（67thTRW）のRF-4E。
▽着陸する第23戦術航空支援飛行隊（23rdTASS）所属のO-2A。
▽米空軍宇宙防衛航空軍団（ADCM）の第24航空師団（24thAD）第17防空評価飛行隊（17thDSES）所属のEB-57E。

△RF-4E of 67th TRW from Bergstrom AFB., Tex.
◁O-2A of 23rd TASS.
▽EB-57E of 17th DSES, 24thAD, ADCM.



(上)着陸進入する米海兵第101戦闘攻撃訓練飛行隊(VMFAT-101)所属のF-4N。〔中/下〕海兵第231戦闘攻撃飛行隊(VMFA-321)のF-4N。全面グレイー色で塗装した機体は，海軍および海兵隊の新塗装で，オーバーフォール時に塗り変えられている。またそれにともない，部隊マークの色調も下げ，大きさも小さくするように指示されている。

(Top) - F-4N of VMFAT-101. (Mid./Bottom) - F-4N of VMFA-32 painted in the newUSN and Marine paint scheme of overall gray. Navy and Marine squadrons are also being advised to tone down the color and size of squadron markings on the aircraft.







エドワーズ基地のF-18原型機



Photos by F.B. Mormillo



 F-18 RPOTOTYPE AT EDWARDS AFB



エドワーズ空軍基地の格納庫で整備中のYF-17改造のF-18原型機。YF-17はノースロップ社の販売促進上の目的から何度も塗装変えされているが，写真ではスペイン空軍の塗装が施されている。F-18Lプロトタイプと記入されているが，L型はF-18の陸上型機である。

F-18 prototype (＊201570) or remodeled YF-17, at Edwards. The YF-17s have been repainted a number of times as a part of Northrop sales promotion effort. This is in the Spanish AF paint scheme. "L" means land-based aircraft.




0-38372







迷彩塗装をしたF-18原型機。この機体201569は，スペイン空軍の塗装をした201570を，常時飛行可能な状態にしておくための，スペア・パーツ確保のため現在は飛行不能になっている。写真ではエンジン，エレベーター，垂直尾翼上部などが取りはずされている。なおF-18はマクダネルダグラス社で製作されるが，その１号機は去る９月13日にロールアウトしている。

Aircraft ＋201569 is currently not flyable because it has been used as a source of spare parts to keep ＋20150' airworthy. The first F-18 has been rolled out at McDonnell Douglas, St. Louis, 13 September.



カナダ・アメリカ合同空戦演習
"MAPLE FLAG"



Many aircraft participated from the US and Canada in MAPLE FLAG, a full-fledged air combat exercise, held in April and May at Canadian Forces base Cold Lake. The exercise, known well together with RED FLAG of Nellis AFB, to train NATO member nations in an environment closer to their European homeland.

Photos by G. Wragg

"MAPLE FLAG" USAF-CANADIAN FORCES JOINT EXERCISE







去る4月末から5月末まで，カナダのコールドレーク基地で，カナダとアメリカの合同空戦演習"MAPLE FLAG"が行なわれた。左ページはコールドレーク基地のフライトラインに並ぶ参加機。
△タキシングするカナダ国防軍434スコードロンのCF-5A。胴体中央下面にSUU20A/Aディスペンサーを装備している。
▷滑走路にむかう409スコードロンのCF-101B。後方は離陸する米空軍のF-15A。
▽フライトラインにならぶ417スコードロンのCF-104。

△CF-5A of Canadian Forces' 434th Sq. equipped with SUU20A/A dispenser.
▷CF-101B from 409th Sq. USAF F-15As are in the back.





(USAF Photo)



△カナダで開発された新型
対地ロケット弾CRV-7を発
する，米空軍第355戦術戦闘
隊(355thTFW)所属のA-7D
◁主翼下に訓練爆弾を装備
て離陸する，米海兵第211攻
飛行隊(VMA-211)所属のA-
4M。
▽フライトラインにならぶ
米空軍第1戦術戦闘連隊(1
TFW)のF-15A。

▽A-7D from 355th TFW firing a CRV-7 air-to-ground missile developed in Canada.
◁A-4M of VMA-211.
▽F-15As of 1st TFW in a row on the flight-line.





①イスラエルのダディラン社が開発した，小型の軍用無人偵察機マスチフ。全長2.5m，全幅4.2m，重量70kgで，最高速度110km/ph，最高高度3,000m，滞空時間最高6時間，ペイロード15kgの性能を有す

① Manless reconnaissance plane, MASTIFF, developed by Dullan of Israel. The 2.5m long, 70kg weigh drone can fly for six hours at 110km/h at themaximum.







②2回目の飛行を終えて着陸するF-16量産1号機。③8月17日，ゼネラル・ダイナミックス社フォートワース工場で盛大な納入式が行なわれ，F-16量産1号機は正式に米空軍に引渡された。F-16の最初の配属部隊はヒル基地の第388戦術戦闘連隊で，米空軍では1,388機を購入予定している。④ソ連の北西国境での演習に使用されたミル-8ヘリコプタ。

②F-16, mass-production No.1 plane, second flight. ③The plane was delivered to the USAF in a ceremony at General Dynamics, Forth Worth, 17 August. A total of 1,388 planes are to be delivered. The first plane was assigned to the 388th TFW, Hill



▷8月中旬嘉手納基地に飛来した，クラーク基地駐留の第3戦術戦闘連隊(3rd TFW)所属のF-4E(東京都 田中浩和)。

▷F-4E of 3rd TFW, Clark AFB, appears at Kadena AB, Okinawa, mid-August, (H. Tanaka, Tokyo).



◁岐阜基地で運用テストを続けている，T-3練習機の5号機(愛知県 村瀬 浩)。

◁No.5 plane of T-3; operation tests underway at Gifu JASDF base, (H. Murase, Aichi).



▷横田基地に飛来した，RC-135M(東京都 清水 毅)。

▷RC-135M, photo taken at Yokota AB (T. Shimizu).



◁8月末横田基地に飛来した，米海兵第311攻撃飛行隊(VMA-311)のA-4M。同部隊はVMA-214に変り岩国基地に駐留している(東京都 渡部明彦)。

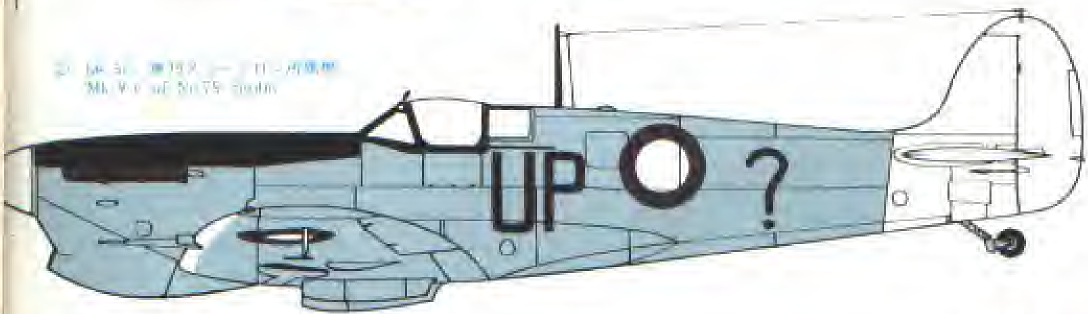
◁A-4M of VMA-311. Photo taken in August at Yokota AB. This unit, now VMA-214, stays at Iwakuni MS, (A. Watanabe, Toko).

SUPERMARINE SPITFIRE

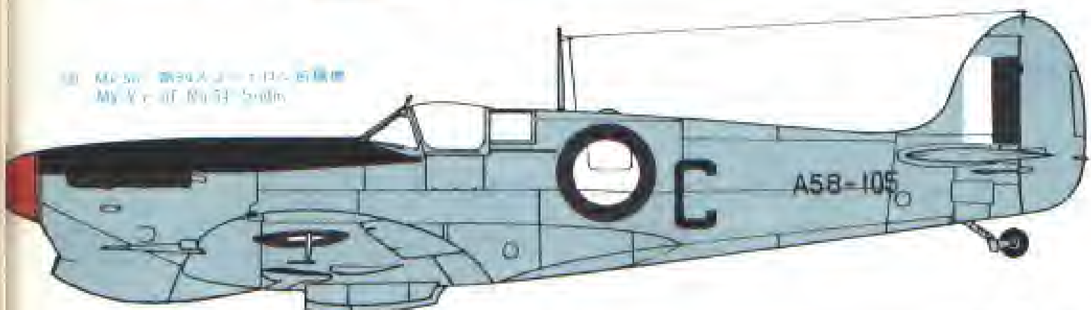
1. Mk I of No.19 Sqdn. [illegible] Flown by B.J.E.Lane



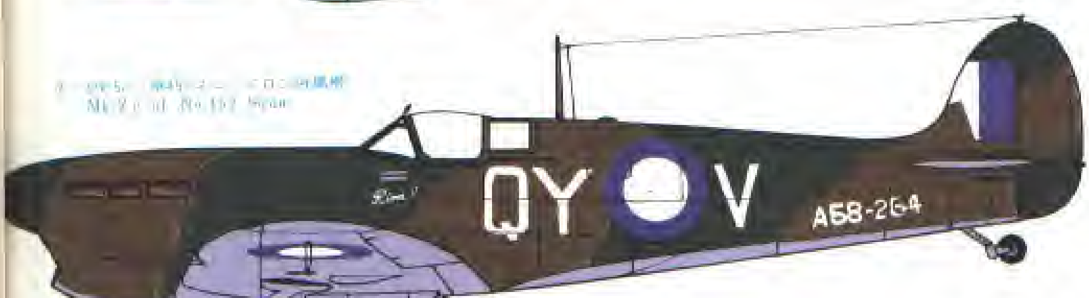
2. Mk Vc of No.79 Sqdn.



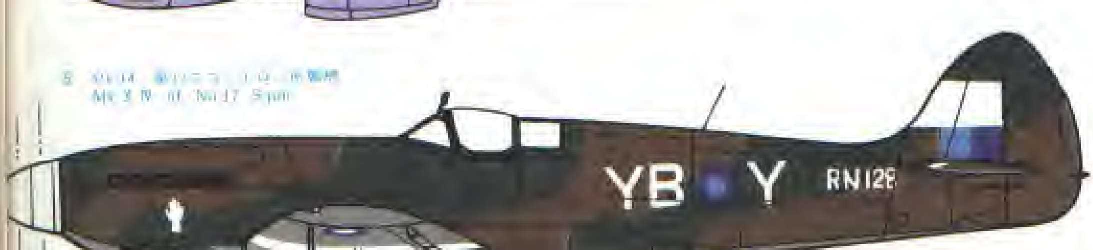
3. Mk Vc of No.54 Sqdn.



4. Mk Vc of No.45[illegible] Sqdn.



5. Mk XIV of No.17 Sqdn.



© K.Hashimoto



空母で運ばれるスピットファイア

Spitfire Mk. Vc aboard the American aircraft carrier





アメリカの空母の甲板上に繋留され，ハンガー内に収納されて運ばれる英空軍のスピットファイア。熱帯地用のボークス・トロピカル・フィルターをつけ，胴体下にスリッパー・タンク（増槽）を装備したMk. 5Cである。撮影時期や所属部隊は不明であるが，アフリカ戦線から移動中の地中海上と思われる。上の写真の機体は，機首に「地上テストすること」と書かれている。一部の機体は主翼端をはずしているのに注意。



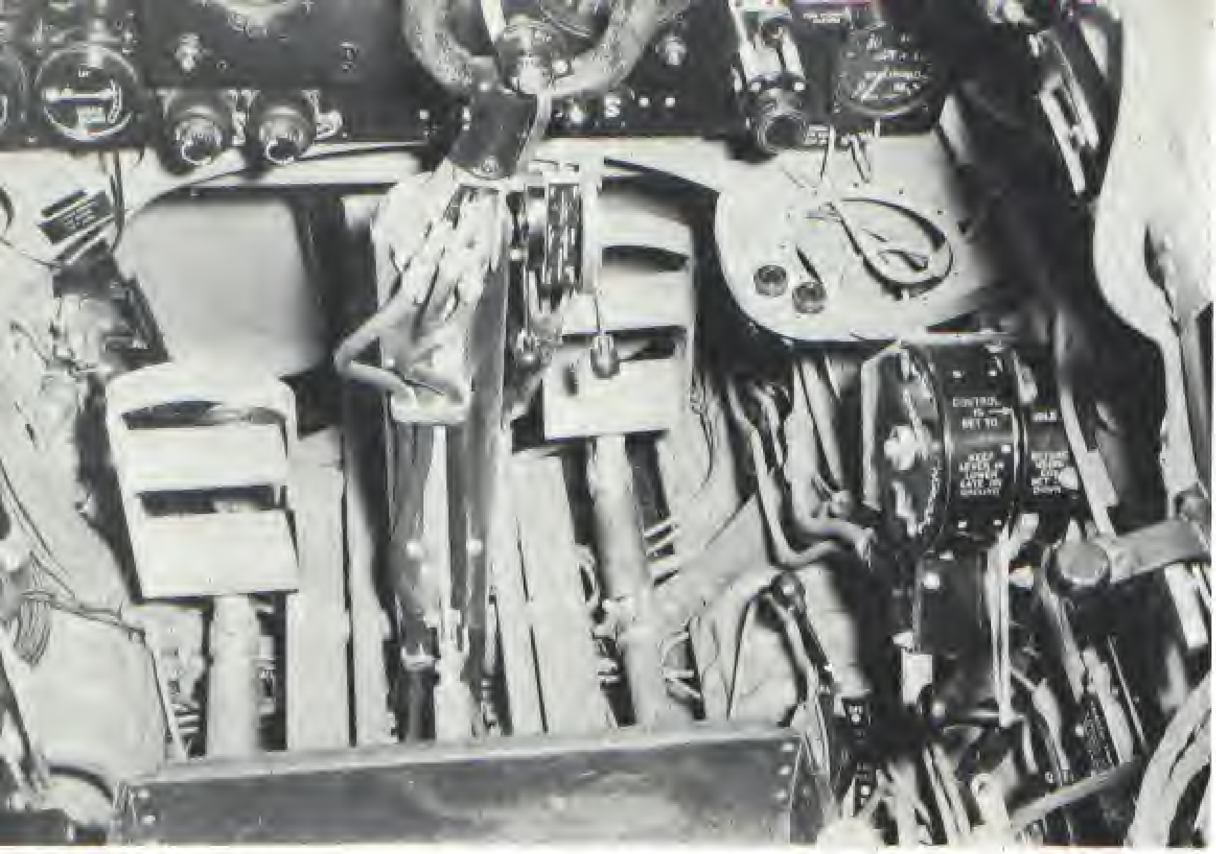
オリジナルカラー スピットファイア



第417(カナダ空軍)スコードロンのスピットファイアMk.5b。同スコードロンは1942年6月に英国からエジプトに到着。一時自由フランス空軍払下げのハリケーン2を装備したが，10月にふたたびスピットファイアに改変，翌43年6月までチュニジア，マルタ方面で戦い，のちにシシリー島に移ってイタリア戦役に参加した。写真は1943年7月ごろ，シシリー島での撮影と思われる。

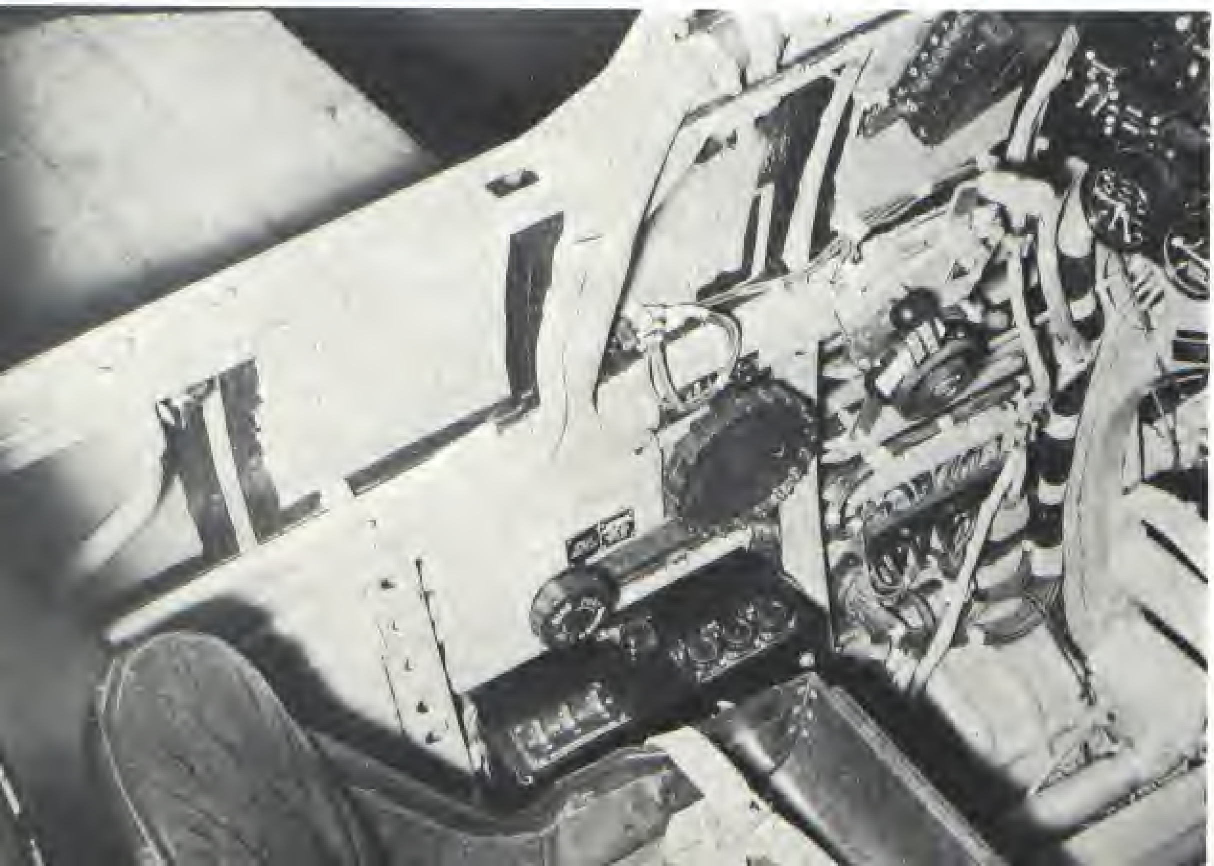


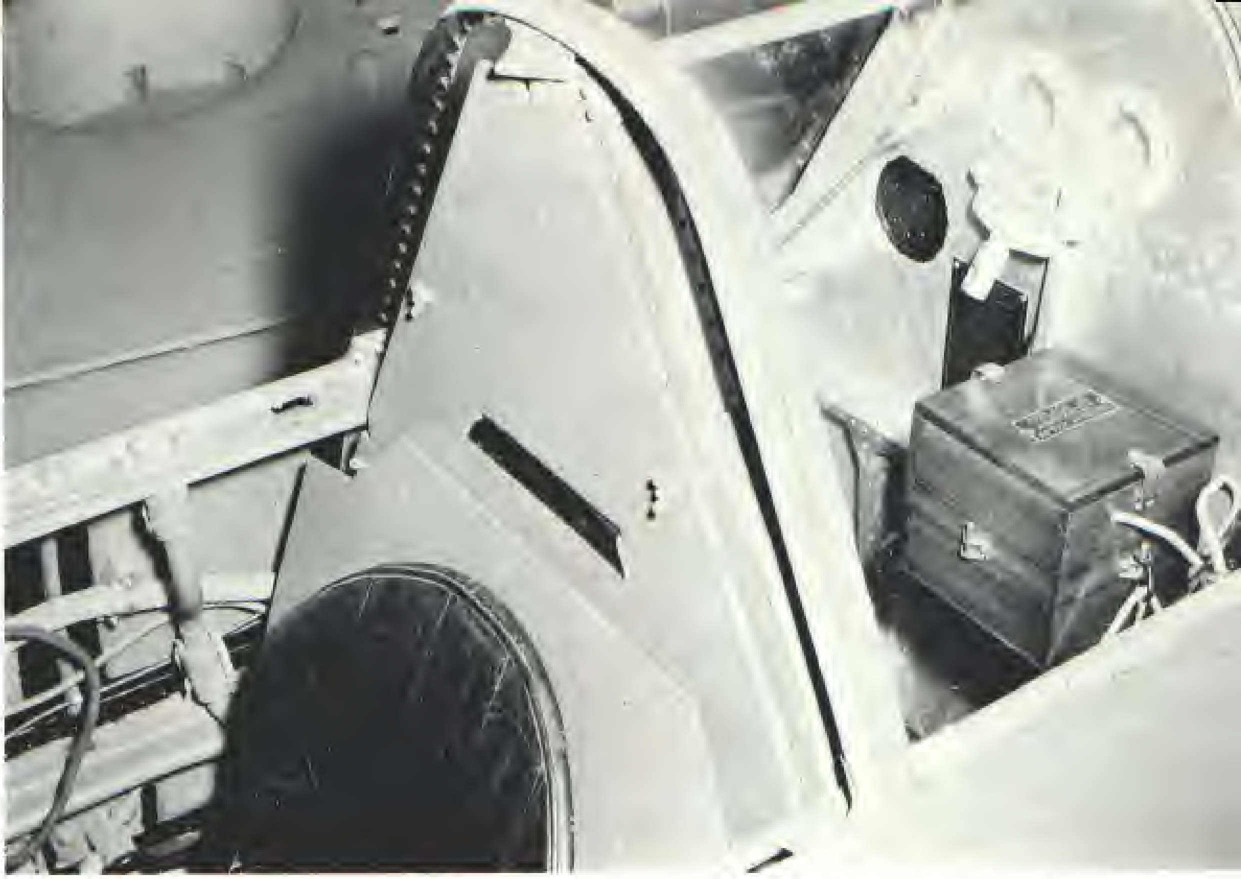
Spitfie Mk.V b of No.417 Squadron in Western Desert Campaine



スピットファイアMk.7のコクピット

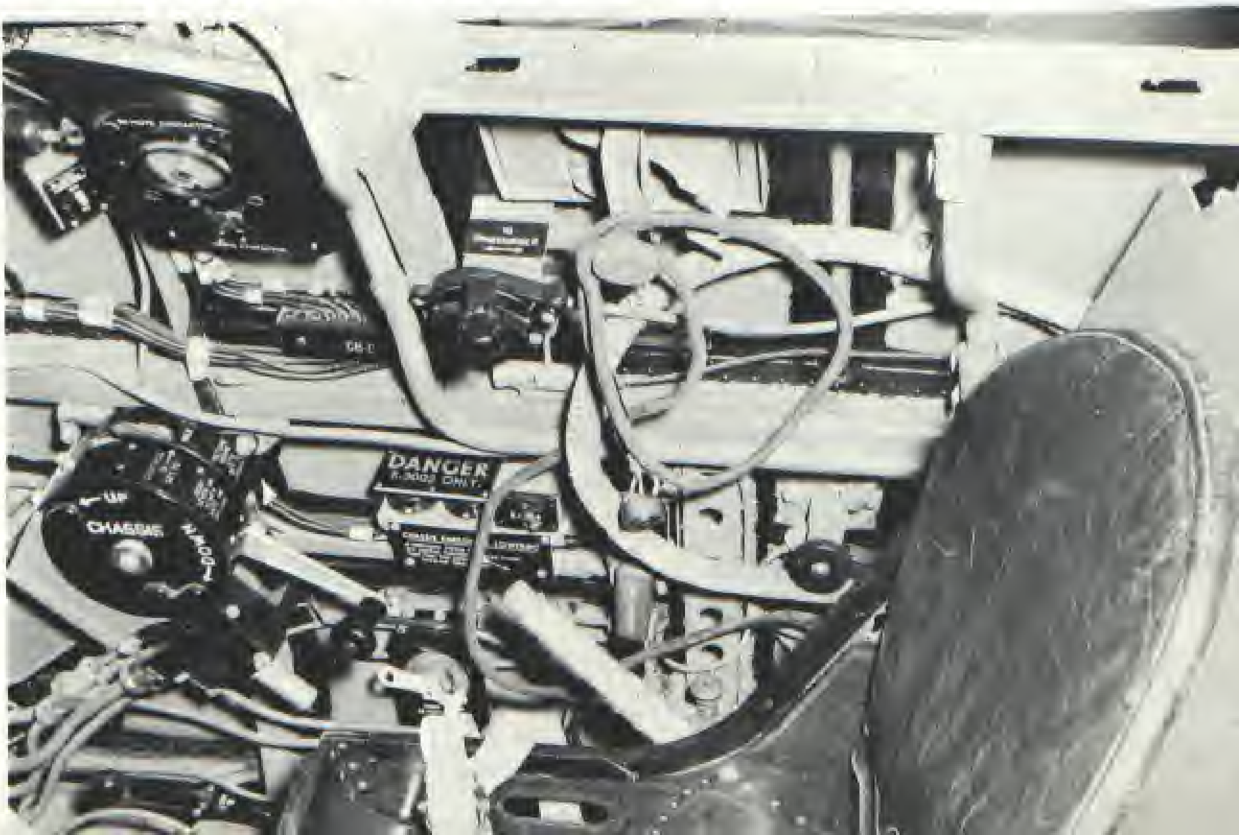
カラー・ページと同じく，スミソニアン航空博物館で保存しているスピットファイアMk.7の操縦席。本文記事とあわせてごらんください。





Spitfire Mk. Ⅶ's Cockpit Interiors

写真左上は後方から正面下方を見たもので，フット・バー，燃料タンク切換えスイッチの細部などがよくわかる。写真左下はコクピット内左側，エレベータ・トリムタブとラダー・トリムタブのハンドホエールなどもアップでうつっている。写真上はコクピットとその後方の隔室。この隔室には増槽や酸素ボトルなどを積む。写真下はコクピット内右側，座席の一部，脚上げ下げレバー，ラジオ調整装置，緊急時に座席のベルトをはずすハーネス・レリーズ・コントロールなどがはっきりとうつっている。





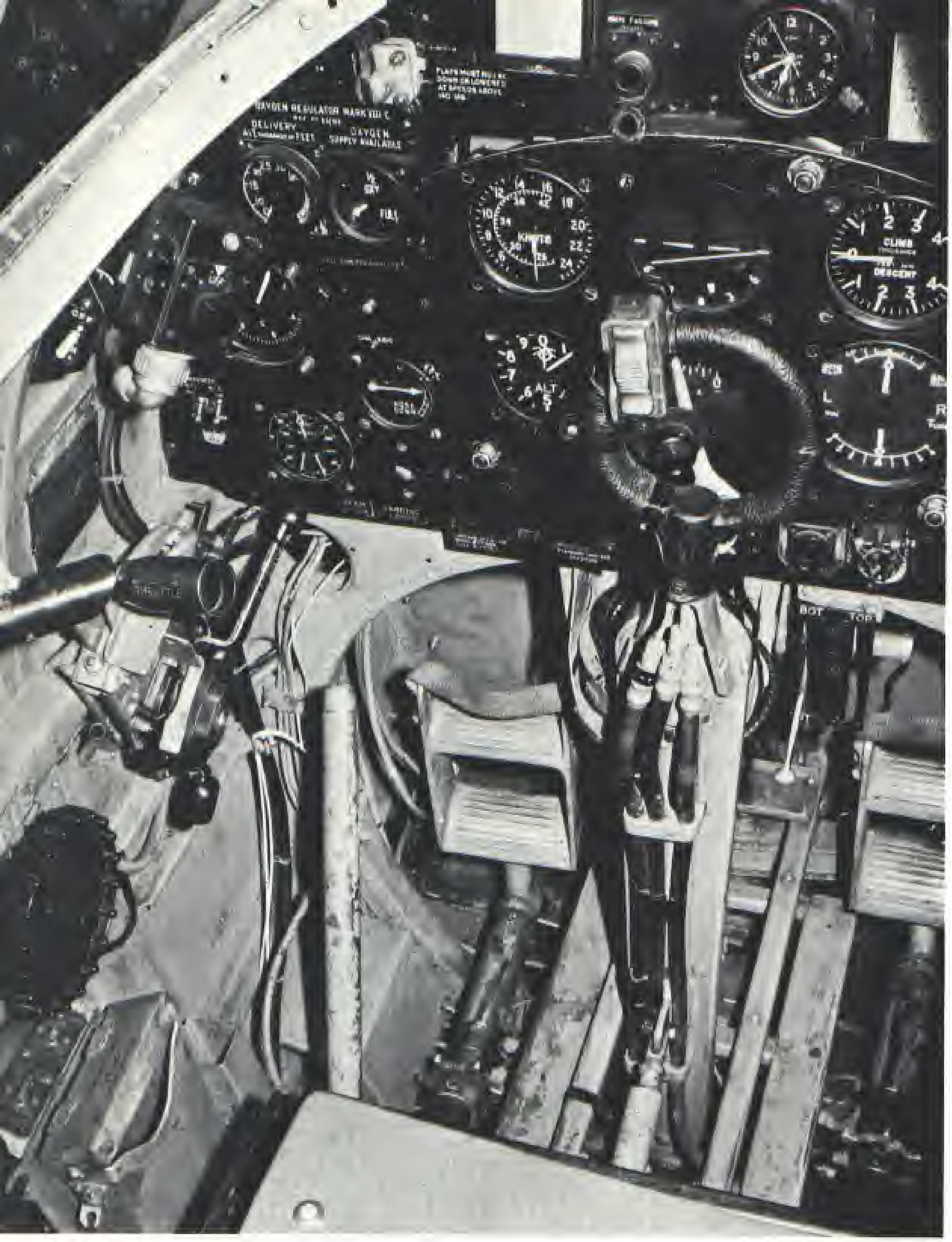
(85ページ本文記事参照)

カラーで見る スピットファイアのコクピット

今月号のコクピット内計器板は、英空軍の栄光の翼スピットファイア。これもワシントンのスミソニアン航空博物館が保管しているMk.7である。アート写真、本文記事とあわせてごらんください。操縦スティックの環状のにぎり左上方に付いている矩形のものは機銃/機関砲のプッシュ・ボタン，その下方の赤く見えるのはガンカメラの押しボタンである。







スピットファイアMk.5のコクピット

写真上と右上は，スピットファイアMk.5の操縦席。正面中央のブラインド・フライング・インストールメント・パネル（計器飛行用計器）はほぼMk.7と同じであるが，ほかはメータや配置が異なっている。計器飛行用パネルの左側は酸素用の計器，その下は主脚位置指示計，その下はエレベータ・タブ位置指示計，その左下はブレーキ圧ゲージ，その左横は点火スイッチ。右上の写真は前方から座席後方を見たもので，風防の開きぐあいなどがよくわかる。



Spitfire Mk. V's Cockpit Interiors

スピットファイアMk.9/11/16の計器板

写真下はスピットファイアMk.9, 11, 16の正面計器板。①エンジン点火スイッチ，②降着装置指示メータ，③酸素流量計，④航行灯スイッチ，⑤フラップ作動スイッチ，⑥計器飛行用計器板，⑦遮光スクリーン，⑧射撃照準器スイッチ，⑨同支え，⑩電圧計，⑪コクピット換気装置，⑫エンジン回転計，⑬過給器異常警報装置，⑭ブースト計，⑮エンジン冷却器調整装置，⑯冷却装置温度計，⑰滑油温度計，⑱燃圧異常警報装置，⑲燃圧計，⑳油圧計，㉑エンジン始動ボタン，㉒ブースターコイル・スイッチ，㉓コクピット照明灯スイッチ，㉔昇降舵修正タブ位置指示計。Mk.5, Mk.7の計器板と比較しながらごらんください。

Spitfire Mk. IX / XI / XVI's Cockpit Interiors



GENERAL DYNAMICS

F-16A FIGHTER





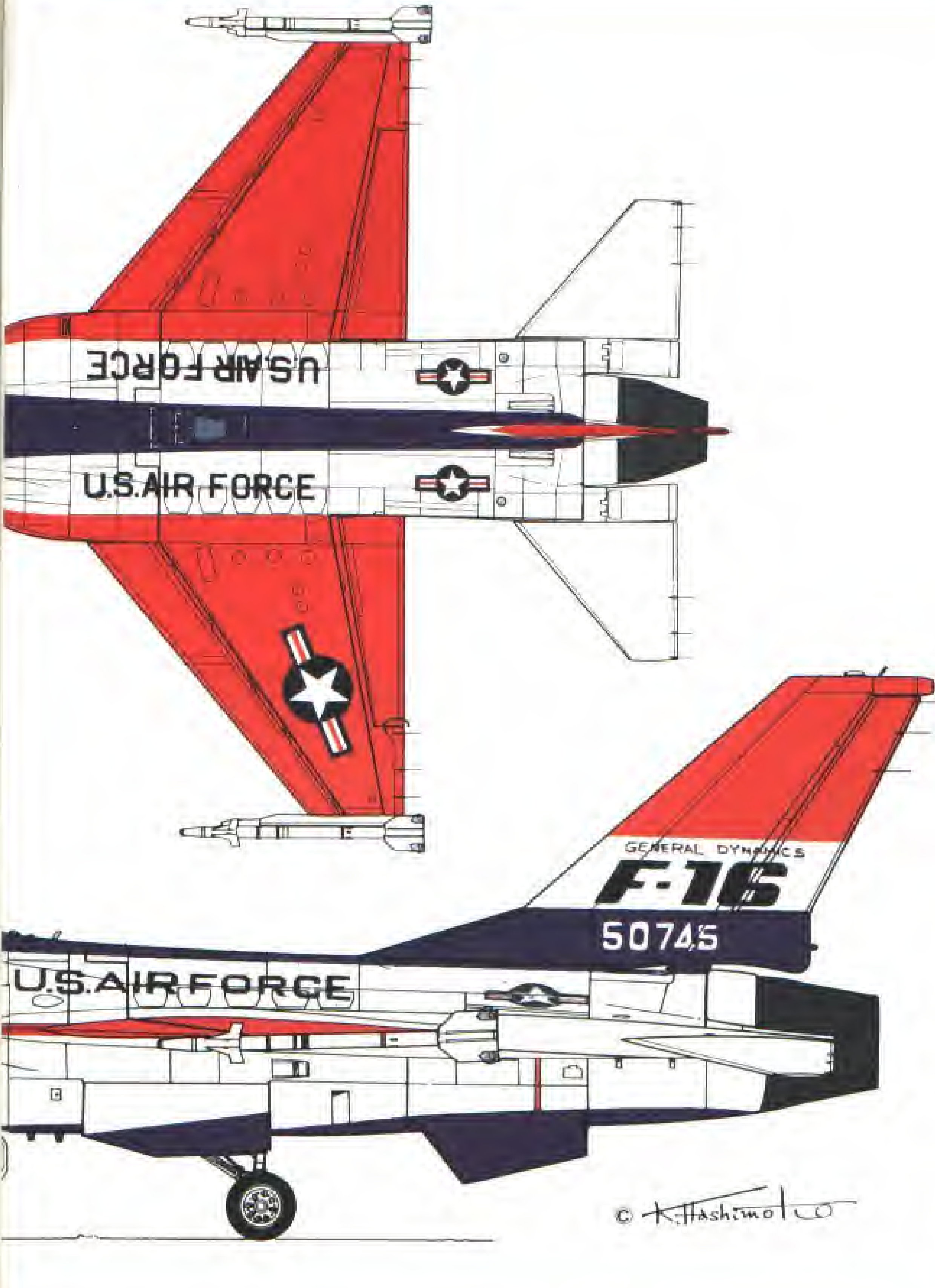
1976年10月に、ゼネラル・ダイナミックス社のフォートワース工場で完成した量産先行型のF-16の1号機。機首にベルギー、デンマーク、オランダ、ノルウェー、アメリカの5ヵ国の国旗を画いてロールアウトした。



グンゼ産業Mr.カラー
配合ガイド






U.S.AIR FORCE
U.S.AIR FORCE
GENERAL DYNAMICS
F-16
50745
U.S.AIR FORCE
© K.Hashimoto

GUNZE SANGYO

グンゼ産業Mr.カラー

ハイモデリングのための塗装マニュアル

ゼネラル・ダイナミックス F-16Aの塗装

☆先行量産型の1号機☆

量産が開始されたスマートなF-16の先行量産型機、第1号機の塗装をカラー・ページでご紹介しよう。胴体は上面が白と腹部が薄いブルーに塗り分けられ、垂直尾翼の上部とか主翼の上下面がレッド、そして機首部が黒という鮮やかな塗り分けである。

機首の両サイドにはアメリカ、ベルギー、デンマーク、オランダ、ノルウェー5カ国の国旗が描かれる。脚部、脚柱などは白の塗装である。市販されているF-16のプラモデル・キットも、かなりそろっており、カラフルな塗装に仕上げるのも魅力のポイントである。

☆グンゼMr.カラー☆

飛行機、自動車、船、鉄道、そして戦車、軍服に至る基本色がそろっているグンゼ・カラーは昔から定評のあるカラー。それぞれの専用色がそろっているが、飛行機の塗装に、これら飛行機以外のカラーを応用するのも、上手なカラーの使い方だ。たとえばインシグニアレッドの代用となりそうな鉄道色の〈赤2号〉とか、同じ銀色にしても飛行機用とはちょっと異なる自動車とか、鉄道用を部分部分で塗り分けてみるという手法もある。

なお、飛行機用には、ドイツ機色としてRLMグレーとかF-15イーグル用には、エアスペリオリティ・ブルーなどのカラーも新発売中。グンゼ・カラーなら、ほとんど混色の苦労はいらないほどに、それぞれ専用色がそろっている。

（イラストと解説・橋本喜久男）

写真は1976年10月20日にロールアウトした 量産先行型F-16Aの1号機。






F-16
50745



Spitfire Mk.7's Cockpit Interior

99ページよりつづいて，スピットファイアMk.7のコクピット。写真上はコクピット内右側で，内壁にとりつけられているのは，信号弾のスイッチ・ボックス，ラジオのコントロール・ボックスなどで，その下に白い字で"CHASSIS"と書いてあるのは脚上げ下げレバー，その後方の赤字で"DANGER"と書いてあるのはIFF作動スイッチ，その後方の太いくだは酸素マスク用ホース，その下方に赤く見えるのは非常用の脚出しレバーである(本文記事参照)。写真下は操縦席内左側で，内壁には，後方からラダー・トリムタブ・ハンドル，まるく大きいラダー・トリムタブ，"AIRSCREW CONTROL"と書いたプロペラピッチ調整装置などが並んでいる。



英空軍の栄光の翼

スピットファイア



Spitfire Mk.1B of No.92 Squadron.

SUPERMARINE SPITFIRE

Spitfire Mk.9 of No.416 Squadron arrires in Normandy.



〔前ページ〕第92スコードロンに装備されたスピットファイアMK.1B。第92スコードロンは1940年5月にブレニムに代えてスピットファイアの1型を装備、フランス沿岸哨戒の同機による初出撃で、Bf109を5機撃墜する戦果をあげている。同年9月からはこのスピットの1型で、ビギンヒルを基地にバトル・オブ・ブリテンを戦い、40年末までに127機のドイツ機を撃墜した。翌41年2月からはスピットの5B型に機種改変している。スピットの最初の実用型であるMK.1には、主翼に7.7mm機銃8挺装備したA型と、20mm機関砲2門+7.7mm機銃4挺のB型がある。

〔上〕1944年6月、ノルマンディに到着した第416スコードロンのスピットファイアMK.9。操縦席側方のパイロット昇降用ドアを開いて待機中。

〔下〕簡易舗装の滑走路を離陸する第412スコードロンのスピットファイアMK.9C。1945年春、ドイツ本土内の基地でのスナップ。

Spitfire Mk.9C of No.412 Squadron.



Spitfire Mk.8 in flight.



（上）飛行中のスピットファイアMK.8。MK.8は，1941年9月ごろから北フランス上空に姿を現わしたフォッケウルフFW190A-1の対抗馬として急きょ造られることになったものである。高空性能を改善するために2速，2段スーパーチャージャー装備の新型エンジン，マーリン61（1,660hp）を積み，胴体を補強して尾輪を引込み式とし，4翅プロペラにするというものであったが，それだけに設計が遅れ，FW190に対するまにあわせの対抗馬であったMK.9が先に戦場に出ることになった。1942年11月から生産が開始されて，1,658機が生産された。

〔下〕イタリア戦線に配備されたスピットファイアMK.9，出撃を終えて帰投したところ。MK.5の機体にマーリン61エンジンを積んだMK.9は，予想外の高性能を発揮し，5,550機余が生産されて，スピットの各型のなかでもっとも広く使われている。

A Spitfire Mk.9 returning from a sortie.





このページと次ページは、アメリカ海軍の空母に積まれて運ばれる熱帯地用フイルター装備のスピットファイアMK.5C。スピットファイアで、このボークス・トロピカル・フイルターを装備したのは、MK.5Aが最初である。上の写真では各機とも主翼端をはずし、吊り下げられている機体はエンジン・カウリングもはずして、操縦席左横のパイロット昇降用フラップを開いている。アフリカ戦線から後送されるときのものでもあろうか。



Spitfire Mk.5Cs on board U.S. Navy aircraft carrier.



左下の写真は空母の甲板上に積まれた１機で、被弾したのか機首に損傷を負っている。これも主翼端をはずし、胴体下には90ガロン入りの増槽、スリッパー・タンクを付けており、その形状がよくわかる。上と下の写真も甲板上のMK.５Ｃで、いずれもスリッパー・タンク装備。下の写真の機体の主翼端は通常のまるいものだが、上の写真の機体は先端のとがった高々度用のものをつけているようである。下の写真の後方に見えるのはグラマンＦ４Ｆ。



Spitfire Mk.5C and crowd at the Air Show, Municipal Airport, Chicago, April, 1942.



［上］太平洋戦争中の1942年４月、アメリカのシカゴ空港で開催された航空ショーに展示されたスピットファイアMK.５C。イギリス空軍の花形機ということで、人気を集めているようだ。

［下］スピットファイアMK.８のプロフイル。コードが広く先端のとがったラダーを付けて、通常のまるい主翼端。これがもっとも一般的なMK.８であった。

Spitfire Mk.8.





脚を出したままのローパス。すっきりした
おなじみの塗装に塗りかえられ迫力満点。

After coming back to Japan, the Maloney ZERO (Model 52, A6M5, partially reported in the previous issue) was repainted in what it had been thirty-five years ago. Piloted by Steve Henton, a young 26-year-old show pilot, the old Japanese bird displayed her prowess, first at Okegawa Airstrip, about 40km northweest of Tokyo, for five days starting 23 August. A total of more than 120,000 reportedly visited there for five days. No further provincial tour schedule has yet been announced.



ローパスで脚を引込める。





脚を収め、風防を閉じて高速のローパス



Gea[illegible] into a high-speed low [illegible]

先月号で既報の"里帰りした零戦52型"が故郷の空を飛んだ。ここの写真は8月23日から27日までの5日間、埼玉県の桶川飛行場で開かれた零戦が主役の飛行ショーでの模様。零戦はこの5日間、午前、午後の2回ずつ、1回約25分間の飛行を行ない、30数年ぶりに復元された機体としては信じられないような超低空の高速飛行、ロールなどを披露して、つめかけた観衆を酔わせた。パイロットをつとめたのはアメリカの飛行ショーなどで活躍している若冠26才のステーブ・ヒントン氏。5日間の観客総数は12万、8月27日の日曜日には6万5千人もの観客が入場した。零戦52型は、今年いっぱい日本各地で飛行する予定である。今後のスケジュールは「編集あとがき」参照。

ローパスの一瞬。波うって見える外板は昔日の面影をしのばせる。



Waving-look outerboard at the moment of low-pass remind observers of her old days in battle-fields.

ルフトバッフェの"猛きん"



JUNKERS JU87 DIVE BOMBER　　解説：川上しげる

ユンカースJu87シュツーカ

↑ 晴れた空を編隊で飛ぶJu87D

側上方から見たJu87D型の2機





Ju87D's in formation flight. Note that no plane puts on spats.

〔上〕密集編隊で飛行するJu87D。この写真の機体はすべて主車輪スパッツ（車輪おおい）がはずされている。
〔下〕Ju87DはBシリーズにくらべて、よりリファインされたキャノピーと、後上方防御用の火力を7.9mm機銃2挺に増やしたのが特徴。

The refined canopy and the up-graded protective device with two 7.9mm MGs in installed the rear features the Ju87 D series.







Ju87Ds coming back home after a mission. No village is seen on the ground.

〔上〕地上には人家も見えない。爆弾をかかえていないのは帰投中なのであろうか。Ju87のD型。
〔下〕Ju87D-1の側面写真。パイロットの前方にあるレビ（Revi）光学照準器の形状や、後席の7.9mmMG81機銃とその照準器の角度などがよくでている。スパッツははずされている。



A clear-cut photo of Ju87D-1 (side view) in flight shows particularities of this model including the "Revi", the optical sight and/or the arrangement of the rear 7.9mm MG and its sight.

装備機でたどる 米第5空軍戦史⑰



Maj Thomas B.McGuire Jr. and his P-38 "Pudgy V", (C.R.Anderson)

WINGS OF FIFTH AIR FORCE

〔左〕38機撃墜の第5空軍第2のエース、トーマスB.マクガイアJr.少佐と愛機のP-38J "パッジーV号"。1944年12月、フイリピンのレイテ島で撮影したもので、当時の撃墜機数は30機であった。愛機のニックネーム "パッジー" は彼の妻の愛称である。T.B.マクガイアーは、1943年7月に新編成の第475戦闘大隊に配属されるや、8月18日には、1日に3機の日本機を撃墜するなど、たちまちエースとなったが、終戦の年の1945年1月7日、日本機との空戦で戦死した。

〔下〕1944年6月、ホーランジアの第475戦闘大隊を訪問したチャールズ・リンドバーク（右）とマクガイア少佐。リンドバークは同大隊のP-38戦闘機パイロットたちに、長距離飛行法を伝授。自からも出撃して、日本機1機を撃墜している。

〔右上・中〕第475戦闘大隊第431戦闘中隊（431st FS）所属のP-38J。1945年初め、フイリピン上空を飛行中。

〔右下〕第475戦闘大隊の副隊長メリル・スミス少佐のP-38Jに乗って出撃するチャールズ・リンドバーク。1944年夏、ビアク島にて撮影。

Charles Lindbergh (right) and T.B.McGuire, Hollandia, June 1944. (C.R.Anderson)







P-38J of 431st FS, 475th FG, flying over Phillippine, early 1945. (C.R.Anderson) ⬆⬇.

Maj. Meryl Smith's P-38J. Biak Island D.N.G. Lindbergh in plane. August 1944. (C.R.Anderson)







P-38J Lightnings of 431st FS, squadron markings on nose pod. Leyte, early 1945. (C.R.Anderson) ↑↓



〔上2枚と左〕第475戦闘大隊第431戦闘中隊のP-38Jと乗員たち。1945年初め、レイテ島のタクロバンまたはデュラック基地で撮影。

〔下〕第25連絡中隊所属のL-5。同中隊は"ギニア・ショート・ラインズ"のニックネームを持ち、カンガルーのシルエットをマークに使っていた。

Stinson L-5 Sentinels of 25th Liaison Squadron "Guinea Short Lines". (C.R. Anderson) ↓



XH712,a Javelin FAW.7 of No.29 Sqdn, four 100gal drop tanks.



ジェット軍用機の先輩たち

イギリス編 ㉒

グロスター・ジャベリン GLOSTER JAVELIN

先月号で紹介したFAW.5につづくジャベリンは、レーダーをアメリカ製のAI.22に換装したFAW.6で、計33機が作られた。写真上はその発達型で、エンジンをサファイアSa.7(11,000-lb：4,987kg)に換装、主翼下のパイロンに赤外線ホーミングのファイアストリーク空対空ミサイル4発を積めるようにしたFAW.7。ジャベリンの各型のなかでもっとも多く、142機が生産された。写真は第29スコードロンに配備された1機で、主翼下は100ガロン(454-l)増槽。FAW.7の多くはのちにアフターバーナ付きのサファイアSa.7Rエンジンに換装してFAW.9となったが、写真下はその1機で、第5スコードロンの1機。主翼下はファイアストリーク。

Javelin FAW.9 of No.5 Sqdn, with underwing Firestreaks and ventral fuel tanks.



（147ページ本文記事参照）



ショートS.A.4スペラン　SHORT S.A.4 SPERRIN

このページと次ページは、アブロ・リンカーン4発爆撃機の後継機として、ショート社が1948年末から試作にかかったS.A.4スペランの原型1号機（VX 158）。原型2機の発注は受けたが、空軍当局の要求が変って、1号機の初飛行前に量産への移行は絶望的となった。しかしショート社では飛行テストを続行、2機を軍需省かんかつの研究機として納入した。

原型1号機は1951年8月10日に初飛行したが、その後の飛行テストも比較的好調で、改修個所は、エレベータ・タブが利きすぎるために取付けギアを変えたり、主脚ドアの振動を押え、フラップ上のスリップタイプ・ブレーキは不用とわかって、永久にロックするなど微細なものであった。決っしてスマートとはいえない外形ではあったが、飛行も快適で、ダイブでは15,000ft（4,572m）／分という速度を記録した。

4発のエンジンを2基ずつ重ねて両翼に取付けるという変った配置で、その特徴あるエンジン・ナセルが下の写真でよくわかる。乗員は胴体下の爆弾倉前方と前脚ベイとのあいだに設けられた昇降口から乗り降りした。キャビンは気密室で、窓はワクが多くて小さい。





Short S.A.4 Sperrin VX158 taking off with one Gyron installed on the port lower position.



VX158 during Gyron engine development program. One of Gyron units was installed in each of the lower engine bags.



このページ上の2枚は、デハビランド・ジャイアラン　ターボジェットエンジンのテスト・ベッドとして使われたＶＸ158。いちばん上の写真では左翼の下方エンジン、2枚目の写真では両翼の下方エンジンをジャイアランに換装してテスト中のものである。ジャイアランのテスト・ベッドとなったのは1955年春で、約1年半飛行テストをつづけたが、1956年いっぱいでジャイアラン計画は中止となり、ＶＸ158は1958年初めごろにスクラップにされた。